

平成18年産麦類の作柄概況について

農林総合研究センター

水田農業研究所 米・麦担当

1. 気象概況

気温：11月は平年並であった。12月から1月上旬は低く、平均を2～3度下回る低温が続いた。その後、4月までは2月上旬を除き平年並かやや高く推移した。5月は平年並み、6月第1～3半旬は平年並～やや低かった。

降水量：11月から1月は全般に少なく、特に12月は極端な少雨であった。2月以降は平年並かやや多く推移し、5月から6月中旬はまとまった降雨により多雨であった。

日照時間：11月から1月は概ね多照であった。2月以降は平年並かやや少なく、特に5月中旬から6月中旬は平年比55%の寡照となった。

2 作柄概況

(1) 大麦（はるな二条）

ア 水田農研 生育相調査結果

苗立は概ね良好であった。初期生育は低温寡雨により葉位の進展、分げつが遅れ、生育量は平年を大幅に下回って推移した。2月以降、高温多雨により生育は回復したものの全体に軟弱で、3月中旬以降は凋落気味の生育となり、穂数は平年を下回った。主稈葉数は平年より約1枚減少した。出穂期は平年に比べて3日遅れた。登熟は寡照によりやや遅れ、成熟期は平年よりも4日遅かった。また、5月中下旬のまとまった降雨により倒伏が発生した。

稈長、穂長は平年よりも長かった。

1穂粒数、千粒重はほぼ平年並だが穂数が少なく、収量は平年をやや下回っ

た。外観品質は収穫前の降雨の影響で粒色が低下し、平年よりもやや不良であった。

イ 県内全般

11月は好天が続き、播種作業は順調に進んだ。初期生育は抑制気味であったが、2月以降回復し、穂数は平年並に確保された。出穂期は平年より3～4日ほど遅れた。4、5月の寡照の影響で登熟が遅れ、成熟期は平年より4～5日程度遅くなった。また、やや軟弱な生育で、稈長が平年並～やや長く、倒伏が発生したほ場もあった。

穂数が平年並に確保され、登熟期間はやや寡照傾向であったが概ね登熟も順調であったことから、収量は平年並～やや多収であった。品質は粒張りが良く概ね平年並であったが、一部では収穫前の降雨や倒伏の影響でやや低下した。

(2) 小麦

ア 水田農研 生育相調査結果(農林61号、あやひかり)

出芽、苗立は良好で、農林61号は平年並、あやひかりは平年を上回る苗立が得られた。大麦同様、初期生育は全般に抑制気味であった。2月以降、生育は回復したが、農林61号は茎立ち以降凋落気味の生育となり、穂数は平年を下回った。あやひかりは平年をやや上回る穂数が確保された。出穂期は農林61号で2日、あやひかりで5日遅れた。登熟は寡照の影響で遅れ、成熟期は農林61号で4日、あやひかりで7日遅れた。また、5月下旬以降のまとまった降雨によりほ場内の一部で倒伏が発生した。

稈長、穂長は平年並～やや長かった。農林61号は穂数及び1穂粒数が少なく、収量は平年をやや下回った。

あやひかりは有効穂数、1穂粒数ともに平年を上回り、多収であった。外觀品質は登熟後半の降雨により粒色が落ち、やや不良であった。

イ 県内全般

播種は好天に恵まれ各地で概ね順調に進んだ。しかし、播種期が遅れたほ場では低温寡照の影響で出芽、苗立が遅れ、年明けまで出芽しないほ場もみられた。初期生育は全般に低温寡照の影響で抑制気味で、生育量が著しく少なく推移した。2月以降の高温により生育は回復したが、やや軟弱気味となった。出穂期は平年より2～3日程度遅れた。出穂後の寡照により成熟期は7日程度遅れた。また、5月中下旬以降のまとまった降雨により倒伏が発生した。

収量は地域により変動がみられるが、概ね平年並であった。品質は粒張りがよく概ね平年並～やや良好であったが、一部では収穫前の降雨や倒伏の影響でやや不良であった。

播種期が遅れたほ場では生育の回復も遅れ、穂数が著しく減少し収量が大幅に低下した。

3 まとめ

本年度の生育に影響を与えた主な要因は、以下のように考えられる。

1 2、1月の低温乾燥による出芽の遅れ、初期生育量の極端な低下
特に播種が遅れたほ場における生育不良、収量の低下

2月以降の高めの気温と、まとまった降雨による生育の急激な回復
生育の軟弱化

5月以降の寡照と多雨
登熟期間の延長、収量・粒大の確保、倒伏による粒色の低下

表1 耕種概要 (水田農研 生育相調査)

播種様式	条間 (cm)	麦種	品種	播種期 (月日)		播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
				本年	平年		元肥	追肥(6~7葉期)
ドリル播	30	二条大麦	はるな二条	11.10	(11.6)	6.00	7	0
			農林61号(10+0)	11.10	11.11	7.73	10	0
		小麦	" (8+2)	11.10	11.11		8	2
			あやひかり	11.10	(11.11)	7.96	8	2

- 注) 1. 平年値は、はるな二条：21年間、農林61号：22年間、あやひかり：5年間の平均値。以下同様。
 2. はるな二条の平年値は一昨年までの過去20年間、播種基準日が11月5日であったため参考平年値とする。以下同様。
 3. 農林61号(8+2)区の平年値は農林61号(10+0)を使用。以下同様。
 4. あやひかりの平年値は一昨年までの過去4年間、全量基肥10(N:kg/10a)施肥のため参考平年値とする。以下同様。
 5. ()内は参考平年値。

表2 生育調査 (水田農研 生育相調査)

品種		出芽期 (月日)	苗立数 (本/m ²)	苗立率 (%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期調査			倒伏 程度
							稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	
はるな二条	本年	11.22	138	97.9	4.10	5.26	96.1	5.5	745.8	1.0
	平年	11.15	140	91.8	4.7	5.22	90.4	5.0	773.3	
	平年比(差)	(+7)	99	107	(+3)	(+4)	106	110	96	
農林61号 (10+0)	本年	11.24	165	85.5	4.24	6.16	91.2	8.5	556.7	1.0
	平年	11.22	172	86.0	4.22	6.12	93.0	8.5	613.0	
	平年比(差)	+2	96	99	+2	+4	98	100	91	
農林61号 (8+2)	本年	11.24	167	86.5	4.24	6.16	95.2	8.8	510	1.0
	平年	11.22	172	86.0	4.22	6.12	93.0	8.5	613.0	
	平年比(差)	+2	97	101	+2	+4	102	104	83	
あやひかり	本年	11.22	188	94.9	4.22	6.14	86.3	9.6	588.3	1.0
	平年	11.22	167	94.7	4.17	6.7	83.2	9.2	542.2	
	平年比(差)	(±0)	113	100	(+5)	(+7)	104	104	109	

- 注) 種子千粒重及び播種粒数は品種によって異なる。
 (参考)種子千粒重 はるな二条：42.7g、農林61号：41.5g、あやひかり：40.4g

表3 収量及び収量構成要素 (水田農研 生育相調査)

品種		藁重	精子 実重	有効 穂数	1穂 粒数	m ² 当 粒数	千粒重	1%重	整粒 歩合
		(kg/a)	(kg/a)	(本/m ²)	(粒)	(千粒)	(g)	(g)	(%)
はるな二条	本年	62.1	43.8	731	18.8	13.7	39.1	732.0	82.8
	平年	55.8	48.7	773	18.5	14.1	38.5	673.9	79.7
	平年比	111	90	95	102	97	102	109	104
農林61号 (10+0)	本年	51.1	49.6	534	23.3	12.4	39.7	807.9	99.9
	平年	56.3	51.1	561	27.4	15.1	37.0	769.0	99.4
	平年比	91	97	95	85	82	107	105	101
農林61号 (8+2)	本年	46.9	49.6	500	26.2	13.1	38.9	807.4	99.6
	平年	56.3	51.1	561	27.4	15.1	37.0	769.0	99.4
	平年比	83	97	89	96	87	105	105	100
あやひかり	本年	51.7	67.5	582	27.7	16.1	41.2	816.8	99.9
	平年	50.9	56.9	545	27.2	14.8	42.9	802.4	99.5
	平年比	102	119	107	102	109	96	102	100

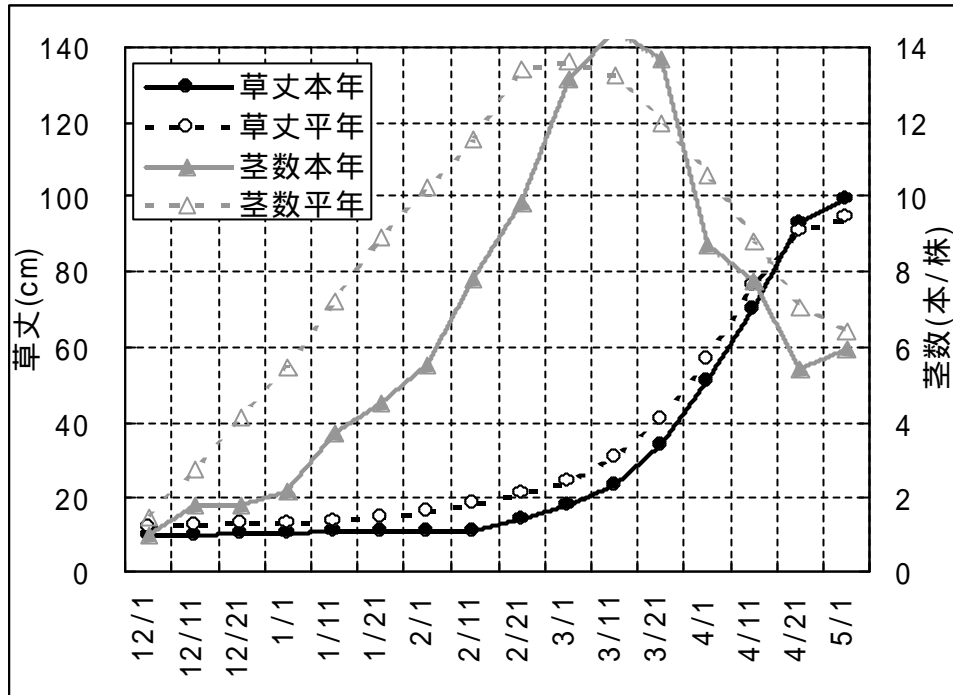


図1 17年度生育相はるな二条の生育経過

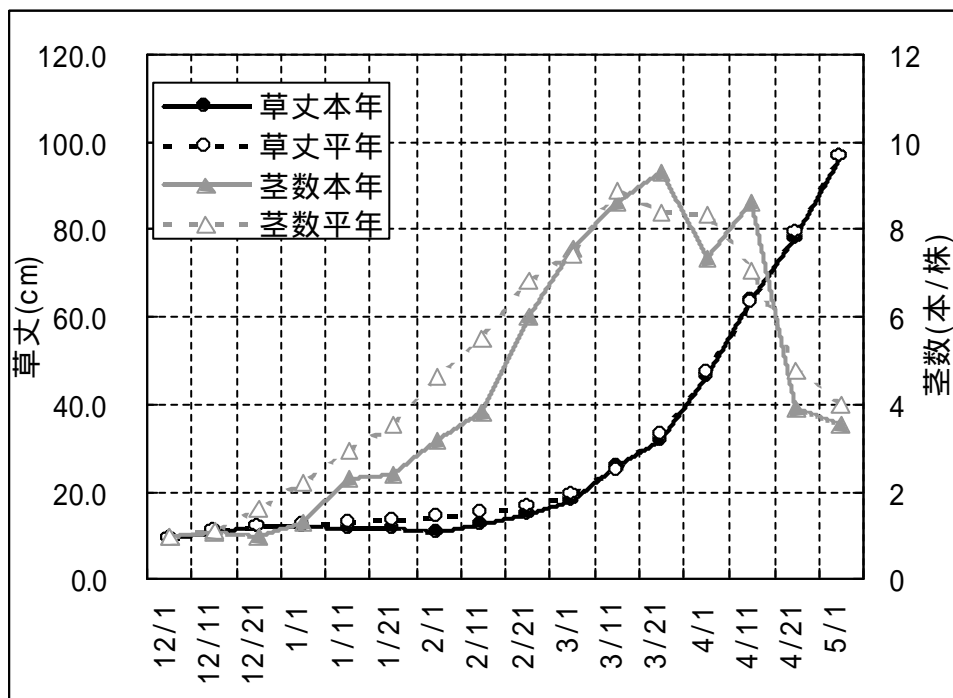
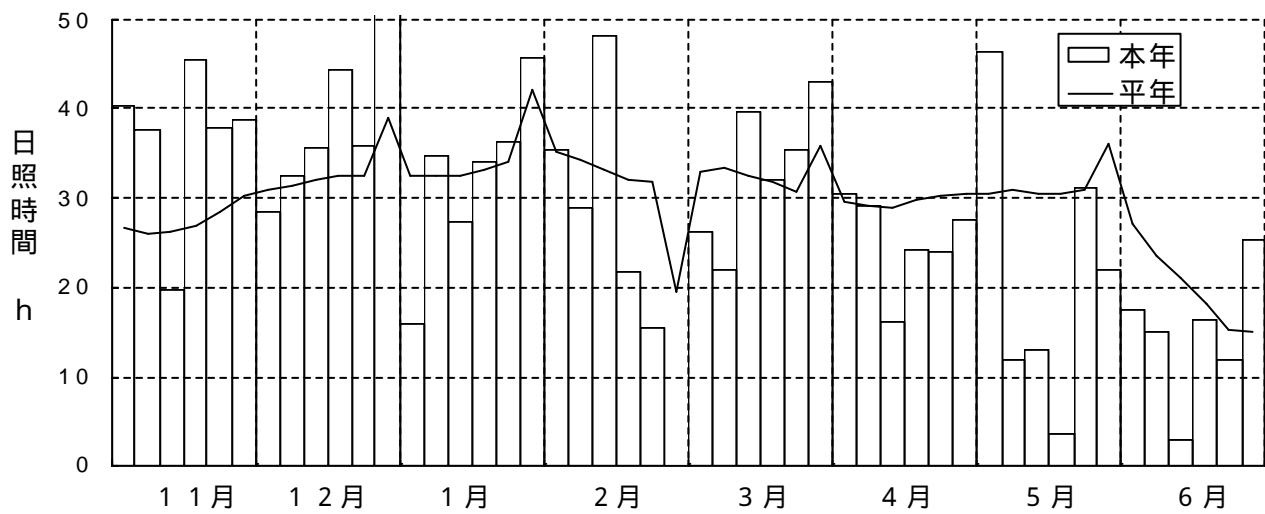
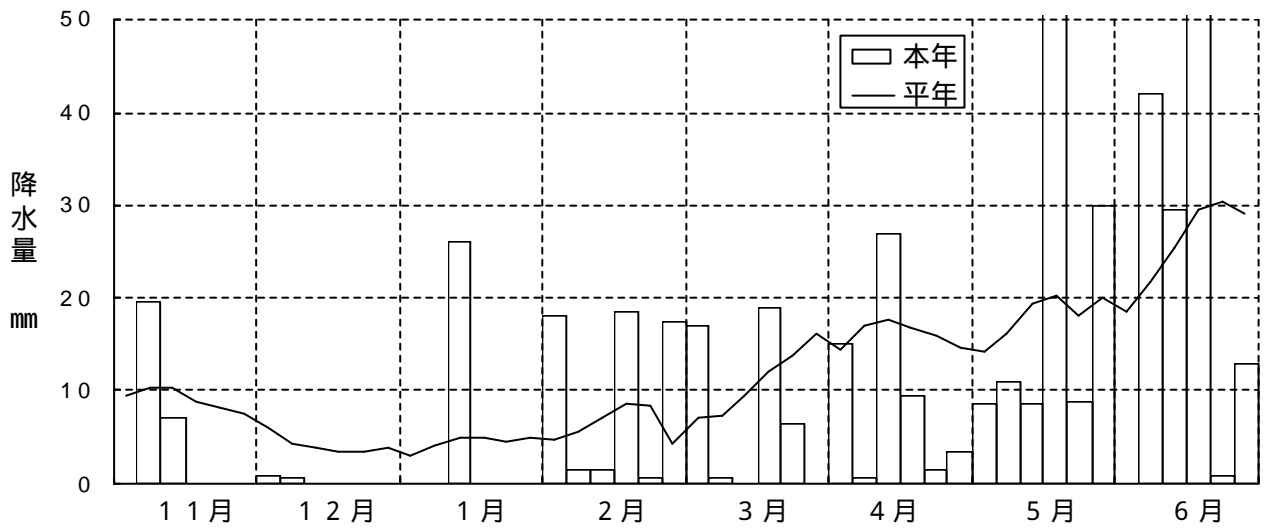
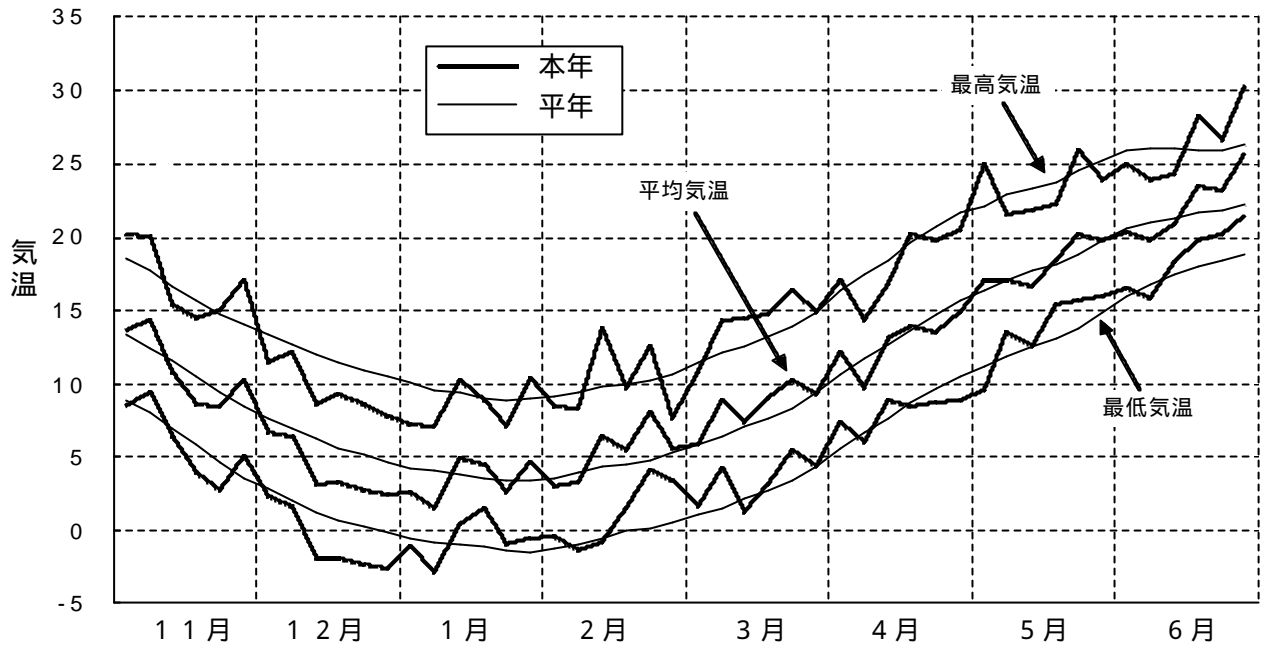


図2 17年度生育相農林61号(元肥8+追肥2kg区)の生育経過



平成17年度冬作期間気象図(熊谷地方気象台)